



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
令和2年7月29日
☎55-2260 第2号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



原点は“なぜ”

つい先日、植えたばかりと思っていた1年生のアサガオが大きく成長し、花が大輪を咲かせはじめました。また、全校で植栽した花壇の花もきれいに咲きそろうようになって来ました。学校再開から2ヶ月。子供たちも元気に学校生活を送っています。

今回は、下にある詩を紹介したいと思います。川崎洋さんの作品です。子どもは、この詩のようなたくさんの言葉では思ったりはしないでしょうが、しかし、まさに同じ発想をしていると思います。

不思議に思うこと、“なぜ”が、私は人間のすべての原動力だと思います。学習にしても、人と人とのふれ合いにしても、毎日の規則正しい生活にしても、また、その人独自の考え方や感じ方にも、その原点は“なぜ”というところにあるのではないのでしょうか。

子どもたちは私たち大人の働きかけの影響を受けながら、時として大きく成長し、そして日々変容をしていきます。それは、この詩の言葉を借りると、“なぜ”を言わなくならないからではないのでしょうか。

私たち教師は、“なぜ”を忘れず日々の生活の中で、立ち止まったり、考えたりするなかで、新たな一步を踏み出し、子どもたちと共に生きる力をはぐくんでいきたいと思っています。



1. 2年生教室前のアサガオ

なぜ

川崎 洋(作)

なぜ 風は 新しい割りばしのように かおるのだろう

なぜ 鳥は 空を滑れるのだろう

なぜ 夏蜜柑は 酸っぱいのだろう

なぜ 海は 色を変えるのだろう

なぜ たった一人の人を 愛するようになるのだろう

なぜ 涙は嬉しいときにも出るのだろう

なぜ フルーツはあんなに 遠くまで響くのだろう

なぜ 人はけわしい顔をするのだろう

なぜ ギターの弦は5本でなく 7本でなく6本なのだろう

なぜ なぜ なぜ そして 人は なぜ

スポーツ心のプロジェクト「笑顔の教室」

先日、本校でも笑顔の教室が5、6年生を対象に開催されました。「スポーツこころのプロジェクト」は、日本のスポーツ界が一丸となって、東日本大震災で被災した「すべての」子どもたちの、「心の回復」を応援するためのプロジェクトです。

子どもたちに、心からの笑顔を届けたい。そして、明日を生きるための希望の種を見つけることで、この先の人生を、強く、しなやかに、なるべく笑顔で生きていってほしい。そんな願いと熱き心を持ったアスリートたちが夢先生となって、子どもたちが学ぶ教室を訪れ、メッセージを届ける活動です。今回は、コロナ禍のため、夢先生が実際には来れませんが、代わりにオンラインで行いました。今回の夢先生は、フットサルでワールドカップ日本代表として3回選ばれ、キャプテンを務め、あの「キングカズ」三浦知良選手と一緒に大会に出場した小宮山友祐さんでした。現在は、フットサルチームの監督を務めている方です。その小宮山さんの話で印象に残ったことは、「**今を大切に**する」という言葉でした。様々な困難を乗り越え、仲間と力を合わせて戦うことの大切さを経験してきたアスリートだからこそ、今、子どもたちに伝えられる言葉だと思いました。



笑顔の教室 オンライン授業